

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサポート株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷(もみじ)		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三反田8-1		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2673000127-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	京都府京都市右京区西院久田町5番地
訪問調査日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりがそれぞれの役割を担いながら季節ごとの製作を行い壁面を飾っている。持てる力のばらつきを考えながら、レクリエーションが楽しめるように入居者同士の関係に配慮して洗濯物たたみなど役割分担をしながら皆で取り組めるようにして、誰もが生活感を持って生活できるように努めている。不安が強い人にはできるだけそばに寄り添い、体調については常に声掛けをして見守られている安心感をもってもらえるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝の朝礼で運営理念「個人の尊厳を大切に」「画一性・おしつけの排除」「地域社会との融合を図る」を唱和し、周知を図り実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの為ご入居者と地域の方との直接的な関わりはあまりないが、社会福祉協議会を通じて、ボランティアの方がクリスマス会用に制作したDVDを頂き、感想をお伝えしてお互いの励みとなった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前には毎年中学生の職場体験の受け入れをしていて、交流や体験を通じて認知症の理解や支援に努めてきた。近隣の方の認知症の家族を抱かえる方の相談や見学を受け入れられる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ではあるが、感染予防対策をとりながら2カ月に1回、定期的に運営推進会議を開催している。感染予防対策やユニットの状況や行事や日々の様子を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では高齢介護課の方の参加もあるので、話し合いもできて協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて身体拘束について学習している。ご入居者の気持ちに寄り添い、各階の移動に制限なく自由に行き来して頂き、見守りをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	長岡京市が開催する虐待防止の研修には管理者が参加している。内部研修にて虐待について学んでいる。職員はストレスを蓄積しないように声をかけながら助け合える環境をつくり、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見制度を利用している人はいませんが、権利擁護に関する制度について研修を取り上げるなど理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約はホーム長が行い、介護報酬改定などのお知らせも事業所から行っている。利用者や家族から不安や相談があった時には速やかにホーム長に連絡をしてご理解と納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全家族に運営推進会議のお知らせをしており、参加を呼び掛けている。また面会時や電話などでもご意見を頂き、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案事項はユニット会議などでまとめて、リーダー会議やグループリーダー会議へと繋げることで代表者に届くようになっている。トップダウンではなくボトムアップ体制となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの条件を考慮したり、休日には体調を整えたり、リフレッシュできるようにシフト作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間の計画を立てて実施している実践者研修も受講してもらっている。外部研修で「看取り」について学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり同業者との交流はできていないが、ホーム長は乙訓医師会が主催している療養手帳委員会に出席をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や情報から課題を抽出して、したいこと、できることの把握に努めて安心安全に生活ができる環境づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を親身になって聞くことで安心してもらい、より良い関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化が転倒を招く危険もあるので、福祉用具の利用なども考慮に入れて相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたむなど職員と入居者と協力して行ったり、食後テーブルを拭いてもらうなど役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で直接お会いする機会は減っているが、電話で連絡をしたり、ご本人の状態を伝えて相談しながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞いなど今までの関係が続いている。入居されてご自身で知人に住所変更のお知らせを連絡した方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	能力の差や入居者同士の関係性にも配慮して見守ったり、スタッフが間に入ったりしながら楽しい時間が過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会った時には挨拶をしてご家族の近況を伺ったりすることもある。懐かしい話にしみじみすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話より、～がしたい、～が食べたいなど、入居者の希望など聞き逃さずにユニット会議など議題として挙げて話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話より得た情報を共有して、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで体調を管理して、休息の取り方や、食事の仕方に気を付けて過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を大切にして、ユニット会議で意見を出し合っている。家族の気持ちも汲み取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録を書いている。何のレクリエーションをしたか、楽しかった様子なども記入をして次にどのように繋げていくかを考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてホーム長にも相談して、マッサージや歯科衛生につなげるなど家族の協力も得て対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長岡天神の書初め展に出展している。今年も入賞する方がいて励みになっている。毎週金曜日には移動市場が来ておやつなどを選んで楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される前からのかかりつけ医を継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護職員による健康チェックがあり、体調管理をしている。入居者に体調の変化がみられた時は相談したり医師に連絡を入れてもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子や情報はホーム長に聞いてもらっている。退院時のサマリーも参考にし、体調管理に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化、食事量の変化などがみられた時は看護職員やかかりつけ医に相談をしたり、どのように見守っていくかを家族の意向も確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフルームにはマニュアルがあり職員は確認をしている。緊急持ち出しが用意されていて、病歴や、薬内容、家族の連絡先が記入されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	消防署と連携して年2回の消防訓練を実施している。その際、新人職員は消火器の使い方を習っている。近隣住民の方にも訓練の日をお知らせして参加をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した丁寧な言葉がけに努めている。入居者の居室に入る際はノックをして返事を頂いて入室をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か話したい様子が見られた時は傍に寄って話しやすい雰囲気をもったり、意思表示が難しい方には、わかりやすく選択できるようにして、本人の思いや自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションは本人の意思を尊重して参加をしていただいている。散歩に出かけたい気持ちを大切に、その時に対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容の訪問があり好みのカットや希望により毛染めをされる方もいる。季節に合った服装ができるように見守りをしたり、薄着の時は一緒に服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助が必要な方もお箸を持たれたときの意欲を大切に、手をそえて支援している。焼きそば、バーベキューの時は調理を一緒にしたり、節分にはお一人お一人で巻き寿司を巻いていただいた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックして体調、体重の変化に気を付けている。食事中に手が止まっているときは声をかけて促すこともあるが、無理のない食事をしてもらっている。こまめにお茶やポカリなどで水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。声掛けをして促して見守りをしている。スポンジブラシを使用して介助を必要としている方もいるが、口をすすぐなどご自身でできるところはしていただき清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前にトイレを促したり、排泄のリズムを把握して声掛けをすることで失禁することも減っている。羞恥心にも配慮しながら、ベッド上でのパットの交換をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は朝食前に冷たい牛乳を飲んでいただいて、腸の動きを促している。主治医と相談して緩下剤の錠数や服用の間隔による影響を観察して、その方に合った調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の希望に添えるように時間やタイミングを伝えている。お湯の温度の把握や、ご自身の好んだ石鹸で気持ちよく入浴をしてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後にはゆっくりとくつろぎながらテレビをみて話をしたり、自由な時間があり、お一人おひとりが自分のペースで就寝をしている。ナイトケアが必要な方は見守りをして、安心して就寝できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効用についていつでも見ることができるようにまとめられていて、理解するように努めている。薬に変更があった時は様子観察を行い経過を主治医に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、干す、テーブルを拭くなど手伝っていただく役割がそれぞれにある。編み物を趣味としている方はご家族の物を編んで喜んでもらえることで張り合いになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり遠出はできていないが、近くの畑まで少人数で出かけて気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はホームで行っているが、移動市場を利用して、買い物を支援している。コロナ禍でなければ一緒に買い物に出かけられる環境である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方は自由に電話をされている。所持されていない方はホームから電話をしてお互い安心されている。年賀はがきを一緒に買いに行き、ご自分で書いて郵送し交流を続けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁飾りを一緒につくり、飾ることで完成品を喜ばれたり、季節を感じて会話が弾んでいる。手すり、共同の場所の消毒や換気も細目にしてコロナ感染予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で新聞を読んだり、パズルやトランプがしたいとき自由に手に取ることができる環境である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでに使われていた家具を持ち込まれたり、なじみのものがあり、布団で寝るなどこれまでの生活様式の継続をして、落ち着く居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置しており、転倒を予防しながらご自身で歩行をされている。長い廊下であり、入居者は往復をして運動をしている。機械浴が設置されており、浴槽が跨ぎにくい方も楽に浴槽につかることができている。		